

本校算数科における少人数指導

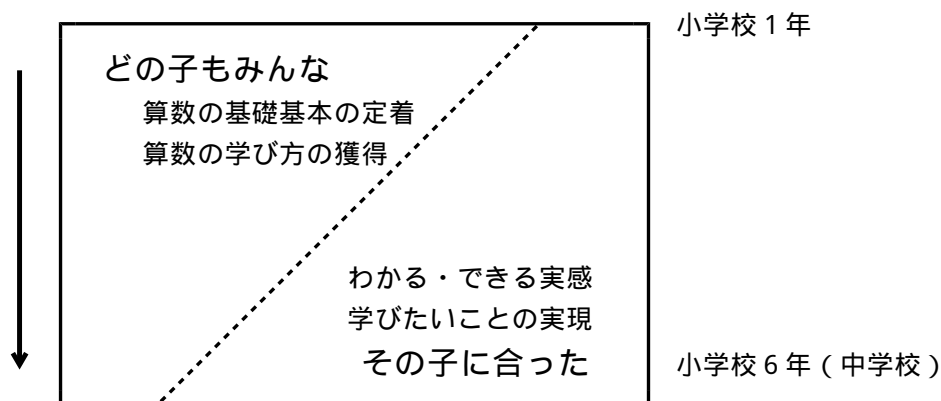
1 ねらい

- 文部科学省，香川県教育委員会は -

その子の思考の道筋や習熟度に応じた学習の場を保障する。
教師から一人一人の子どもへのかかわり・見とりの機会や時間を増やすとともに，
一人の子どもにかかわり，見とり，指導する教師の複数化を図る。

一人一人の子どもの算数への興味・関心を高め，算数の基礎・基本の学力の向上を図る

- 私の学校，私の学年，私のクラスの実態は -



2 少人数指導の運用

子どもが自ら数理を創造していく過程を大切にしたい単元展開において，「もしも2名の教師でこの子どもたちを指導することができたなら，どのように寄り添うことが望ましいであろうか」を考え，1時間1時間の編成のスタイルを考えたい。

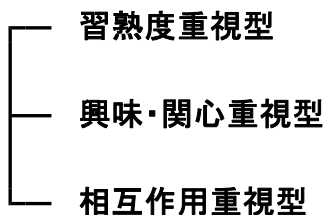
子ども一人一人の習熟度に合った，あるいは思考の道筋に沿った学びの場を保障することは大変重要。しかし，その一方で，様々な他者からなる集団で学ぶことには，様々な他者の考え方に触れることで，それまでの自分の考え方を客観的に見つめ直すとともに，より幅広い見方・考え方を身に付けていくことができるという価値もある。

そこで，本校算数科では，算数の問題解決学習の各段階でのねらいや大切にしたい学び方に応じて，

「習熟度重視型」・「興味・関心重視型」・「相互作用重視型」

の少人数編成を位置付けている。

3 少人数指導の3つの編成スタイル

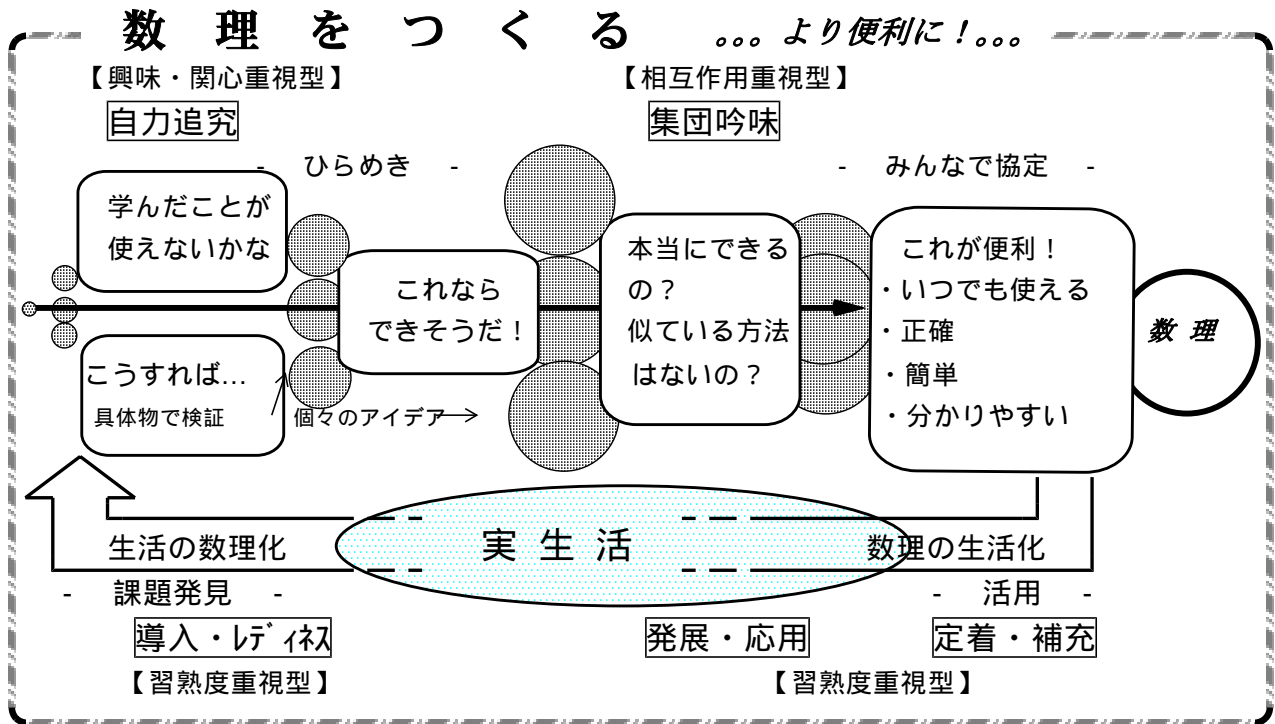


★ 3つの編成スタイルについて

	習熟度重視型	興味・関心重視型	相互作用重視型
編成のねらい	個々の習熟度に応じることで、基礎・基本の定着や理解の幅の拡がりにアプローチする。	個々の課題，興味・関心に寄り沿い，課題解決にアプローチする。	集団吟味を活性化させ，数理の獲得・構造化にアプローチする。
編成のきっかけ	教師が子どもの学習状況や理解度を評価しグループ編成を行う方法も考えられるが，子ども自身が自分の学びを自己評価した上で，教師が提示した学習プランの中から自分に適するコースを自己選択することが望ましいと考える。	教師が子どもの発言や表現物を手がかりに，複数の解決の道筋への願いを見とる。そして，その願いに応じるような学習プランを示し，子どもが自己選択する。	教師が子どもの習熟度・発言力・思考タイプなどを評価し，それぞれのグループに多様な個性の子どもが属するように編成を行う。(ジグソー，バズ学習)
可能性	子どもの習熟度に応じて学習活動や支援を工夫することによって，それまでに理解が十分ではなかった子どもに基礎・基本の定着を図ったり，進んだ子どもに発展的あるいは統合的な課題を投げかけ理解の幅を拡げることができる。	子どもの解決の道筋に応じた学習環境や支援を工夫することができるので，自ら考え，自ら算数をつくる充実感や楽しさを味わわせることができる。	母集団の特性を保った小集団で多様な考え方を出し合わせられるので，個々の応答の機会を増やし学び合いの充実感を味わわせることができる。
考慮すべき点	理解が十分ではない子どものグループにおいては，学び合いの場面において多様な考え方を出し合ったり，よりよい数理を創造したりすることが難しくなりがちである。 ↓ だから，教え込む，ドリル学習を展開するというよりも，教材を工夫するとともに教師が個々の気づきを引き出し仲介することで，学び合いの活性化を図りたい。	同じ思考の道筋の集団なので，学習対象を一面的に考察し，多様な考え方に気づきにくくなりがちである。 ↓ 他グループとの交流を位置付けたり，教師が違った考え方を示したりすることで，学びの多様性を保障したい。	少人数ながら習熟度や発言力の個人差が大きいため，理解が十分ではない子が生じがちである。 ↓ 節目ごとに小テストやフラッシュカードによる練習等を位置付けることで，基礎・基本の定着を見とりたい。

4 各編成スタイルの適時性

単元展開のデザインは、それぞれの単元で異なるもの・・・一般的におおよその流れを捉えるならば



導入・レディネス

系統性の強い算数科。前段階の学習につまづきを残していると、これから始まる学習への意欲も下がり、これから学習することの獲得も難しくなる。既習内容の習熟を保障したい。

自力解決

課題解決を目指して、個々のアプローチが始まる。個々の課題追究の方向性に応じた環境や学習の道筋を保障したい。

集団吟味

個々の多様な解決方法を妥当性・関連性・有効性の観点から吟味していく。教師が個々の子どもの考えを取り上げ称賛したり、友達が相互に多様な意見の交流を生じさせたりするなどの相互作用の活性化を保障したい。

定着・補充

本単元での学習につまづきを残していると、これからの学習でのつまづきを助長することとなり、その子の学習意欲をも下げてしまう。基礎・基本となる学習内容の習熟を保障したい。

発展・応用

本単元で活用したことの生活化や既習との構造化に向かわせたい。個々の発展的な学力の伸長に向けた環境や学習の道筋を保障したい。

5 習熟度重視型少人数指導の学習展開のデザイン

★ 各グループの学習展開（学び方・教え方）は、どこがどのように違うの？

どこが……

- スタート
- 学習材もしくはその扱い方
- ゴール

どのように……

